

ICT活用工事計画書

【工事概要】				
工事名 工事箇所 受注者名 土工量				
【内容】				
チェック欄	施工プロセスの 段階	作業内容	採用する 技術番号	技術番号・技術名
☐	①3次元起工測量			1. UAV空中写真測量による起工測量 2. TLSによる起工測量 3. TS等光波方式による起工測量 4. TS(ノンプリズム方式)による起工測量 5. RTK-GNSSによる起工測量 6. UAVレーザーによる起工測量 7. 地上移動体搭載型LSによる起工測量 8. その他の3次元計測技術を用いた起工測量 [8. を選択した場合の技術名称:]
☐	②3次元設計データ作成			
☐	③ICT建設機械による施工	☐ 掘削工 ☐ 床掘工 ☐ 盛土工 ☐ 表土扱い ☐ 基盤造成 ☐ 表土整地 ☐ 不陸整正 ☐ 下層路盤 ☐ 上層路盤 ☐ ☐ ☐		1. バックホウ(ICT施工対応型) 2. ブルドーザ(ICT施工対応型) 3. モータグレーダ(ICT施工対応型) ※採用する機種及び活用作業工種・施工範囲(別途平面図等による)については、受注後の協議により決定する。
☐	④3次元出来形管理等の施工管理	☐ 出来形 ☐ 品質		1. TS等光波方式出来形管理技術 2. TS(ノンプリズム方式)出来形管理技術 3. UAV空中写真測量出来形管理技術 4. TLS出来形管理技術 5. UAVレーザー出来形管理技術 6. 地上移動体搭載型LS出来形管理技術 7. RTK-GNSS出来形管理技術 8. 施工履歴データ出来形管理技術 9. その他の3次元計測技術による出来形管理技術 [9. を選択した場合の技術名称:] 1. TS・GNSSによる締固め回数管理技術(土工) 注5)品質管理をしない理由 []
☐	⑤3次元データの納品			

注1)ICT活用工事の詳細については、「土地改良事業ICT活用工事試行要領」及び特記仕様書によるものとする。

注2)ICTを活用する施工プロセスに「■」を付けること。

注3)採用する技術番号欄には、複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。
 (「採用する技術番号」欄の記載例: 「1」, 「1, 3」)

注4)①、④において、「8or9. その他の…」を選択した場合は、その技術名称を記載すること。

注5)品質管理(締固め回数管理)をしない場合は、理由を記載すること。
 (理由例:「掘削工のみのため。」、「土質が頻繁に変わり、その都度試験施工を行うことが非効率であるため。」等)